

令和 7 年度 県立石岡第一高等学校自己評価表 (定時制)

目指す学校像	(1) 創立 115 年の歴史と伝統を受け継ぎ、各学科の特色を生かし、地域における教育の中核として「魅力ある学校」「信頼される学校」となる。 (2) 生徒一人一人が個性を伸ばし、将来の夢を実現するための知識・技能を身に付け、自信と誇りを持てる学校となる。 (3) あらゆる教育活動の場面で、生徒が主体的に行動し、活気に満ちた学校を目指す。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○「学び直し」に力を入れ、基礎学力の定着をはかり、社会で生きる力を養います。 ○「なりたい自分」を見つけ、その実現のために努力する力を育成します。 ○多様性を認め、他者と協調・協働して行動する力を養います。 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数クラスにより、丁寧でわかりやすい授業を展開し、基礎基本の定着をはかります。 ○学年を越えた学校全体での諸行事を通して、他者と協働して物事に取り組むことによってコミュニケーション能力や社会性を育みます。 ○学校生活での不安を抱える生徒に対し、丁寧な支援・相談を行うとともに、さまざまな機関とも連携してサポートしていきます。 ○学校生活やアルバイトを通して、他者から学び自分を見つめることを大切にしていきます。 	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎から学び直したい生徒。 ○働きながら高校へ通い、卒業を目指して頑張れる生徒。 ○学校行事など集団生活を通して、様々な体験をしたい生徒。 ○社会と学校のルールやマナーを守って、落ち着いた高校生活を送りたい生徒。 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
個々の生徒の実態に応じた教材を利用することで基礎学力の向上を図ることができた。学校行事等への参加を促し、個性の伸長を図り、教師と生徒相互の好ましい人間関係を築くことができた。また、集会等に落ち着いた態度で参加し、講師や教員の話真剣に聞くことができた。	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①授業時間の確保に努める。 ②生徒の実態に応じた教材を利用し、学習・課題プリントの利用により「分かる授業の実施」に努め、学習意欲を高めさせる。 ③地域の特別支援学校との連携をはかり、多様な生徒の実態にあわせた教育方法の検討をすすめる。 	A
	進路意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ④進路に関する情報収集や適切な進路選択ができる能力を育てる。 ⑤ 3 卒に向けた進路相談及び学習支援により進路意識を醸成する。 	B
	基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ⑥欠席や遅刻を減らし、仕事と学習の両立を促す。 ⑦家庭や社会との連携を図り、社会規範を遵守する態度を育てる。 	B
	特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ⑧学校行事やホームルーム活動へ積極的に参加させ、それらの活動を通して仲間意識や信頼関係を構築させる。 ⑨継続的な就業体験での学びから、将来の生き方を考えさせる。 	A
	保健厚生の充実	<ul style="list-style-type: none"> ⑩心身の健康増進、自己管理能力の向上を図るため、教育相談体制を 	A

別紙様式2 (高)

		充実させる。 ⑪給食を通して、望ましい食習慣や食の自立等、食育の充実を図り、感染症対策など衛生管理面の意識を育てる。		
	外部への情報発信	⑫HP や新聞等のメディアを活用し、保護者や地域に積極的に情報発信する ⑬地域に開かれた学校づくりを推進する。		B
	教員の働き方改革の推進と服務規律の遵守	⑭日頃のコミュニケーションを通して教職員の良好な関係を作り、学校諸課題に「チーム」として対応する組織づくりを推進する。 ⑮ICT の活用により、職員会議や教材準備等の効率化を図る。 ⑯PDCA サイクルによる評価・改善を行い、働きやすい職場作りに努め、働き方改革を推進する。 ⑰コンプライアンス意識をもって行動し、服務規律の遵守を徹底する。		A
	授業改善の推進	⑱生徒の学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 ⑲教師一人一人が、生徒による授業評価（「中間評価」等）をもとに日々適切に授業改善をする。 ⑳学校の目標として、「生徒による授業評価（「最終評価」）」の各項目における「学校全体の評価平均」を「2.6」以上とする。		A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る。	漢字の読み書きの確認、語句の意味調べを通して基礎学力を定着させる。	B	B クロームブックを活用した授業展開
		学習指導要領に基づく自主作成の教材を用意して、学習の目標を明確にすることにより、学習意欲を喚起させる。	B	
	社会人として必要とされる言語能力を育てる。	様々な分野の文章を読んで自己の考えを発表する、または書くなどの活動を通して、自分の言葉で表現する言語能力を互いに高め合う。	B	
地歴公民	基礎学力の向上を図る。	教科書等の図表、データを活用したプリント教材を作成し、基礎・基本事項を理解させる。	B	B 個人やグループで調べ、考察し、まとめ、発表までできる表現力等の育成
	適切かつ公正な判断力や能力・態度を育成する。	生活に密着した身近な教材（視聴覚教材や新聞を含む）を活用し、多様な角度から現代社会の課題や歴史問題を考察させる。	B	

別紙様式2 (高)

数学	基礎学力の向上を図る。	プリント学習により、基礎的演算力を身に付けさせる。	A	A	電子黒板掲示用の自作パワーポイント教材の更新
	考えを表現できるようにする。	日常生活や社会の事象との関連を意識させることにより、数学の有用性が実感できる教材・課題の工夫をする。	B		
理科	基礎学力の向上を図る。	プリント学習やICTの利用により科学の基本事項を理解させる。	B	B	クロームブックの有効的な使用
	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	身近な話題や事象を多く取り上げ、人間生活と自然現象の関わりについて考えさせる。探求活動（課題の把握、探求、解決）を充実させるなど、授業改善に努める。	B		
保健体育	健康意識の定着を目指す。	健康に対する意識を高め、正しい情報を入手し、自己管理能力を育てる。運動、食事、休養の適切なバランスについての理解を深める。	A	A	健康の保持、増進につながるように自己理解を深め、着実な技能の定着を図る。
	基礎体力の向上を目指す。	授業を通して得意な種目に気づかせ、自発的に自らの体力を向上させる。また、集団の中で、他者とコミュニケーションを図りながら運動に親しむ態度を育成する。	A		
芸術	芸術を愛好する心情を育てる。	幅広い活動を通して様々な事を体験し、主体的に関わっていけるようにする。	A	A	アンサンブルを通して協調性や社会性の向上に繋げていく。作品鑑賞の時間をつくり、作品作成に生かす授業を展開する。
	芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う授業を展開する。	技能的な面の伸長を図るとともに、個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ表現させることができるように、授業改善に取り組む。	B		
外国語	授業の充実を目指す。	プリント教材を充実させ、ICTを利用し、個々の生徒にきめ細かい指導を進める。	A	B	生徒の学習意欲を促進する言語活動を多く展開する。
	世界に対する理解を深め、考えを発信する力を育成する。	四技能を総合的に関連させた指導を充実させ、動画など様々な教材を利用し、日本を含めた世界の諸問題に対する理解を深め、自分の考えをまとめて表現できる力を身に付けさせる。	B		
家庭	授業の充実を目指す。	生活に関する基礎知識・技術が身に付く授業が展開できるように授業改善に取り組む。	A	A	知識と実習の繋がりを実感し相互理解が得られる展開を図る。
	生活を科学的に探求する方法や課題解決能力を育成する。	生活理論とともに、主体的な実験・実習を重視した技術力向上の工夫をする。	A		
情報	授業の充実を目指す。	主体的に学習する意欲と態度を育成する。	B	A	教科書が変更になるに伴うプリント作成
	社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育成する。	言語活動の充実、課題解決学習の充実、情報モラルの指導を行い、身近な情報を活用できる力を身に付けさせる。	A		
教務	教員間の連携を深め、生徒全員の進級・卒業を目指す。	組織的な学習指導体制を確立するとともに、登校状況や授業の出席状況を常に把握して、家庭との連携を密にする。	A	A	内規の見直し、行事の見直しを引き続き行う。
	生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成する。	教育課程の編成に当たっては、基礎・基本的学力が定着するように配慮する。	A		
生徒指導	問題行動等の未然防止に努める。	連休前・長期休業前の指導、薬物乱用防止・交通安全指導等を通して、自他の生命の尊重、規範意識や公共マナーの向上を図る。	A	A	引き続き問題行動の未然防止に努める。 継続的な生徒理解と指導援助の充実を図る。
	生徒理解を深める。	HRや個別面談等あらゆる機会を通して一人一人に対応した生徒理解に努め、指導援助を充実させる。	B		

別紙様式2 (高)

進路指導	希望進路の実現を支援する。	総合の時間やHRを活用し、自己の将来像を具現化する手立てを学ばせ、職業への適性を考える機会を設ける。	C	B	4月から順序立てて計画する。
		全日制の進路指導部との連携を密にし、求人票などの進路情報の有効利用を進める。	B		今後も継続する。
	生徒の個々に応じた進路指導を推進する。	個別面談や保護者面談等を通して生徒理解に努め、一人一人に対応した進路を主体的に選択する能力や態度を育成する。	B		生徒が自己決定できるよう、考える機会を設定する。
特別活動	生徒会活動の活性化を図る。	生徒の実態にあった行事内容を立案し、活動機会を設ける。生徒の意見を学校行事に反映させるよう、生徒会役員を中心にして協議の機会を設ける。	A	B	学年の枠を越えた学校行事を増やすことで少人数ではできない、多集団での活動経験ができる場を提供したい。将来を見据えた展望がもてるように、就業経験をもとに考えられる時間を増やしたい。
	学校行事やホームルーム活動を充実させる。	ホームルーム活動や学年の枠を超えた活動を通して、仲間意識や信頼関係を構築させる。	A		
	継続的な就業体験を通じた勤労意欲の向上を図る。	アルバイトなどの就業を推奨し、継続的な就業体験で学んだことを振り返り、将来の生き方を考えさせることで、勤労意識の向上を図る。	B		
	キャリアパスポートを活用し自己のキャリア形成を深め、進路実現に向けて取り組む力を育む。	多くの情報を整理して、自らの興味・関心や学習状況からキャリア形成を深め、最終的な目標を見据えることができるように進める。	B		
保健厚生	心身の健康増進、自己管理能力の向上を図る。	定期的な保健便りの発行で健康に関する情報を提供し、生徒の健康意識を高める。また、スクールカウンセラーと連携し、一人一人に対応した教育相談を進める。	B	B	スクールカウンセラーの活用を強化し、専門的な助言を参考に生徒の学校生活を支援する。
	望ましい食習慣を定着させる。	食事前の手洗い・消毒等衛生管理意識、余裕のある食事時間、偏食の是正等を指導する。また、給食便りでの情報提供や給食講話を実施し、食育の充実を図る。	B		
渉外	教育内容の広報に努める。	保護者に生徒の学校生活状況を伝え、家庭との連携を密にする。	B	B	定時制振興会をさらに活性化させて、生徒の活動に活かす
第一学年	基本的生活習慣を育成する。	欠席・遅刻・早退を減らす。	B	B	基本的生活習慣の確立
	基礎学力を定着させる。	日々の目標を設定し、学習活動に着実に取り組ませる。	B		
第二学年	就業を促すとともに、基本的生活習慣を育成する。	就業と基本的生活習慣の確立に向けた面談を行う。	B	B	就業への意識を深め、進路決定に結びつけられるようにする。
	基礎学力を向上させる。	3修3卒を目指す生徒への定通併修及び高校卒業程度認定試験受験のサポートを行う。	A		
第三学年	基本的生活習慣を確立する。	欠席・遅刻の多い生徒に適宜面談を実施するとともに、保護者への連絡を密にする。	B	B	基本的生活習慣の確立と基礎学力の向上を自己の進路実現と結びつける
	基礎学力を向上させる。	日々の学習活動を大切に、卒業後の自分の目標を明確にする力を育成する。	B		
第四学年	進路指導を充実・強化する。	個に応じた進路指導を推進し、定職を目指した学習や生活の指導の充実を図る。	C	C	社会で求められる基準を理解させる。
	基本的生活習慣を確立する。	欠席・遅刻の減少を目指し、社会規範を遵守する態度を育てる。	C		面談等を重ね自覚させる。

※ 評価規準： A 十分達成できている。 B 達成できている。 C 概ね達成できている D 不十分である E できていない